



埼玉県マスコット「コバトン」

Vol.78

花とみどり

《特集 園内植物展示と品種保存の取り組み》



松ぼっくりハウス 園内の樹木等を利用して作ったオブジェ。各種イベントで作成し、好評を得ています。

《巻頭言》

埼玉県はご案内のとおり、花植木の主要産地です。その歴史も古く、日本の流通基地として多くの品種が収集、出荷されてきたことも特徴の一つです。また、それらの素材を活かした緑化産業も盛んに展開されており、首都圏の緑化産業において大きな役割を担ってきております。

一方、需要の減少により、江戸時代に全盛を極めた花木類の園芸品種については徐々に生産が減少し、失われていく品種も多くなってきております。

こうした背景から当センターにおいてもこれまで収集・展示してきたウメ、ツバキなどの魅力ある貴重な品種を保存する取り組みを行っております。



彩の国

埼玉県

埼玉県花と緑の振興センター



《 特集① 樹木の品種の保存と収集 》

当センターでは、ウメ、サクラ、ツバキ類、カエデ類、ツツジ類、サクラソウの6つの植物を重要保存植物と位置づけ、積極的に品種の保存、収集に取り組んでいます。

これは、江戸時代中期から脈々と受け継がれてきた本県の植木産業において伝統的な品種が失われてきている現状に鑑み、これを残し後世につないでいこうとする息の長い取り組みです。

本年度は、次の3樹種について接木、挿木による品種の維持、収集に取り組んできました。

○ ウメ

当センターのコレクション130品種のうち梅園において1本のみの植栽である52品種について令和4年度から接木を行い後代を養成しています。

さらに本年度は、旧埼玉県花植木センター(現ふかや緑の王国・深谷市)で植栽している品種のうち当センターにない18品種について穂木を採取し接木を行いました。

○ サクラ

園内植栽の樹木のうち相当年の樹齢で樹勢の衰えつつあるもの等44品種について穂木を採取し接木を行いました。

○ ツバキ類

当センターが所在する川口市の木でもあるサザンカについて、主に安行地域を中心とした本県由来で来歴の確実な20品種及び希少等理由により保存に意義のある6品種について近県の所有者の園から穂木を採取し挿木を行い、養成を開始しています。



ウメ・サクラの接木苗



接木作業風景



ツバキ類（サザンカ）の挿木苗

《 緑のコラム 園内樹木の紹介 》

巨大な松ぼっくりが人気の三葉マツ（大王松・テダマツ）

北米南東部が原産のこのマツの仲間は、大木になる木で当センターでも20m以上に育っており、北米では木材として利用されています。

特徴は針葉が長いこと(日本のマツの3倍程度)、三葉であること、巨大な松ぼっくり(日本のマツの2倍以上の大きさ)が出来ることです。

古くから日本では葉の数で二葉松(赤松・黒松)と五葉松と呼んでいますが、アメリカ大陸では大王松やテダマツのような三葉が一般的で、他に五葉のマツ(ストロブマツ)などがあります。

当センターではこの巨大松ぼっくりを利用し、「松ぼっくりハウス」の工作教室を開くなど、各種イベントで好評を得ています。



《特集② 園内企画展示》

樹木などの植栽を見学できる展示園の他に、花・植木をもっと身近に知っていただけるよう、庁舎ロビーで企画展示を行っています。

令和6年度はヤマアジサイの品種展示や、クリスマスに壁にクリスマスツリーを見立てた展示をしました。また、当センターの歴史にまつわる展示パネルを新たに作成しました。

お越しの際は、ぜひ庁舎ロビーの展示もご覧ください。



ヤマアジサイの展示



新規パネル「花と緑の振興センターの歴史」



クリスマス展示

《園内活動 ボランティア》

緑化についての意識の向上と地域の身近な緑を管理するための技術を身につけていただきたいという思いから、園芸ボランティアとしての活動を希望している方を対象に、「街の緑サポーター養成研修」を開催しています。

研修を修了された方の多くは、当センター内の園芸ボランティアとして展示園の管理作業(除草や剪定)やサクラソウの品種保存をしています(令和7年1月1日時点で、19団体112名)。

また、一部のボランティアは当センターだけでなく、県内にある植物園や公園でも、研修で学んだ知識や技術を活かした活動を行っています。

ボランティア活動の広がりにより、地域の美しい景観の維持や、地域住民同士のコミュニケーションの輪が広がることが期待されています。



《 関連団体紹介 川口市都市緑化植木生産組合 》

平成16年4月に設立した本組合(県内で植木を扱う4つの事業者で構成)では埼玉県が屋上緑化を推進するために開発した安行四季彩マットを商品化して、公共施設の屋上や商業施設内の緑化を行っています。

安行四季彩マットとは、土の代わりにポリプロピレン製の繊維状のマットに樹木や花木類を植え付けたもので、薄く軽量のため設置が容易で、様々な種類の樹木をパズルのように組み合わせて設置することができ、屋上やベランダなどの緑化に適しています。

当センターでは、県内や都内で開催されるイベントなどを通じて、この取り組みを支援しています。



《 トピックス①花植木専門研修 》

7月30日に花植木専門研修を開催しました。講師には法政大学 生命科学部 応用植物科学科の大島研郎教授をお招きし、「花植木の病害虫について」と題して、近年、問題となっている花植木の病害虫をはじめ、先生の研究専門分野についてお話をいただきました。研修には植木生産者・緑化関係業者、行政等関係機関58名が参加。参加された方からは、限られた時間の中で植物の病害について理解できた、診断の受付情報などが知ることができたなど、次回の花植木専門研修の開催に向けた期待の声が寄せられました。



研修の様子



講師 大島研郎教授

《 トピックス②植木類需要拡大セミナー 》

令和7年1月16日に植木類需要拡大セミナーを開催しました。講師には景観デザイナーで、東京農業大学客員教授の槇島みどり氏をお招きし、「植物たちが創るユニバーサルデザイン」と題して、「ユニバーサルデザイン＝すべての人のために」の考えを基に人間の五感を刺激し、すべての人が植物を楽しむための工夫や植物選び、デザインについてお話をいただきました。研修の後半には、園内で採取したハーブなどの香りを楽しめる植物や、手ざわりを楽しむ植物を実際に触れてもらい、効果的な導入方法についてのレクチャーも行いました。研修には植木生産者・建築設計、造園業者、行政等関係機関20名が参加。参加された方からは、植木類の利用方法について理解できた、植木の生産から設計まで幅広く仕事に活かすことができそうなど、花植木専門研修と同様に次回の開催に向けた期待の声が寄せられました。



セミナーの様子

発行 埼玉県花と緑の振興センター

発行人 所長 九十九 和彦

電話 048-295-1806 ファクシミリ 048-290-1012

E-mail h951806@pref.saitama.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/hana-midori/index.html>

